

## 研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		結合生産理論による生態系サービスを考慮した森林管理手法の研究			
研究テーマ (欧文) AZ		Proposal of the forest management method with joint production theory.			
研究氏 代表名 者	カナ CC	姓)サカタ	名)ユウスケ	研究期間 B	2017～ 2018年
	漢字 CB	坂田	裕輔	報告年度 YR	2018年
	ローマ字 CZ	SAKATA	YUSUKE	研究機関名	近畿大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		近畿大学産業理工学部・教授			
概要 EA (600字～800字程度にまとめてください。)					
<p>本研究においては、森林管理において、生産者のモチベーションを解明することを主眼において調査・研究を実施した。森林管理事業の従事者は、森林の利用目的によって維持管理のモチベーションが異なるとの調査仮説を以て、研究を進めた。しかしながら、研究期間においては、仮説を立証する事はできなかった。</p> <p>森林は、近年その生態系サービスの活用が注目されており、研究が進められている。そのなかで、本研究は、森林が生み出す生態系サービスの多くは、森林管理という一つのプロセスから生み出されることに着目した。すなわち、森林所有者は森林を管理するだけでさまざまなサービスを生み出すことができるため、そのうちの財やサービスを金銭に替えても、収入を得ることができる。つまり、近年価格が低下している木材だけに依存するのではなく、複数のサービスから収入を得る体制を作り上げることができるのであれば、林業の採算は改善する可能性がある。</p> <p>ここで森林所有者や林業従事者は、木材を生産することを目的として林業に関わっているのであり、他のサービスによる収益を本来意図していない可能性がある。それゆえ、林業従事者に「良質の」木材の生産を意図しない施業を求めることで、林業従事者のモチベーションが下がる可能性がある。具体的には、森林のレクリエーション的利用を推進するために、林業従事者にガイド的な役割を期待することなどである。</p> <p>この問題を明らかにするために、インタビューをまず実施した。林業従事者の多くは、木材生産をそれほど意識していない可能性が明らかになった。</p> <p>そこで、この点をより一般的に分析するために、林業従事者に対するアンケート調査を実施した。アンケートは、中国地方以西の若手従事者に対して実施した結果、90サンプル弱を入手した。</p> <p>調査期間中にアンケートの分析を終了することができなかったため、2019年度に分析を行う。</p>					
キーワード FA	森林管理	生態系サービス	結合生産	アンケート調査	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA									
研究機関番号 AC					シート番号									

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	

欧文概要 EZ

This research aimed to reveal the motivation of forest producers. Our research hypothesis was the motivation of forest producers varied by the usage of final products. We could not conclude the validity of the hypothesis in the research period.

These days, ecosystem services (ES) are popular research topic in the environmental economics. This research focused on the ES provided by the forest. Forest provides ES by forest management. In Japan, most foresters still rely their revenues on timbers and not develop other source of incomes. Also, most foresters seem to emphasize to get better timbers as building materials. Thus, the motivation of the foresters might decline if the foresters change their main source of revenue.

To test our hypothesis, we conducted interviews and surveys to workers in forest sectors. Unfortunately, we have not finished our analysis in the research term. We will continue our research in the next year.